

カワウ飛来報告アプリ「カワウ 110 番」から見えてきたこと (とちぎ水試ニュース No. 3 から抜粋)

2024. 3. 1 栃木県水産試験場

水産試験場では、魚食性の鳥類であるカワウから水産資源を守るため、カワウの行動調査を行っています。「とちぎ水試ニュース No. 1」では、釣り人参加型カワウ飛来情報共有アプリ「カワウ 110 番」について紹介しました。現在「カワウ 110 番」は実証試験中であり、これまでに（2024 年 1 月 22 日時点）1,081 件の目撃情報が投稿されています。今回はこれらの情報から見えてきたカワウの行動について紹介します。

カワウの大群（50 羽以上）は鬼怒川水系と那珂川水系で目撃されました（図 1）。前者では主要なねぐら・コロニーから半径 15km 圏内で目撃され、改めてねぐら・コロニーでの対策（新たなねぐらの除去、コロニーでの繁殖抑制）の重要性が確認されました。一方、後者では主要コロニーから 15km 以上離れた茂木町や大田原市でも多く目撃され、近隣に未知のコロニー等があることが示唆されました。

また、鬼怒川ではカワウの大群の飛来が増水後に多いことが確認されました（図 2）。増水によって水温の低下や濁りが発生すると、アユが調子を崩すことがあります。また、釣果が伸びないため、釣り人が川からいなくなります。このように、魚が弱り食べやすく、魚をめくりライバル関係にある釣り人がいない増水後の漁場はカワウにとって格好の餌場となっているため、このタイミングでの追い払い等の対策が有効だと考えられます。

カワウ 110 番では、皆様からの目撃情報を可視化することにより「カワウの群れ」の大まかな行動が分かります。さらに、GPS ロガー（とちぎ水試ニュース No. 1 参照）により「装着したカワウ」の詳細な行動が把握できます。これらのデータを組み合わせることで、カワウの行動について特徴を捉えることが可能となり、先回り対策の実行によるカワウ対策の省力化が期待されます。

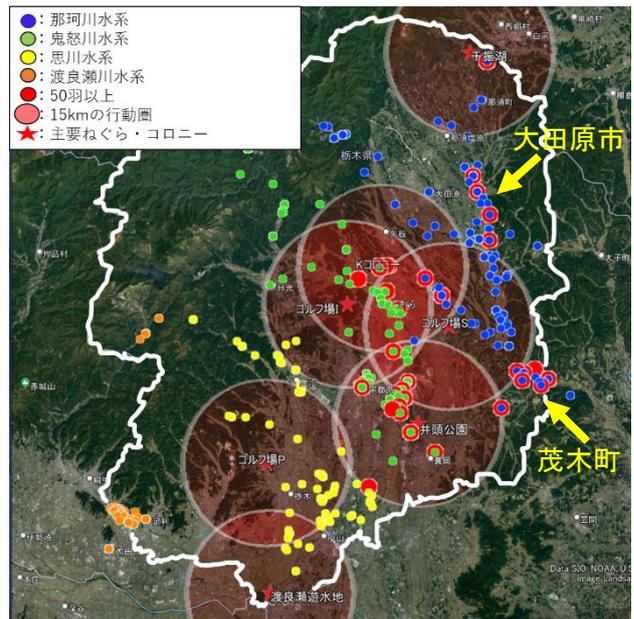


図 1 カワウ 110 番の投稿

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 1 月 22 日まで)



図 2 鬼怒川の大群の飛来と水位の関係